令和６年度　第３回　曳馬小学校運営協議会　会議録（要点記録）

1　開催日時　　令和６年９月 17 日（火）　午前 10 時 00 分から　午前 11 時 20 分まで
2　開催場所　　曳馬小学校　多目的ホール
3　出席委員　　飯尾忠弘、川井啓介、中村佐知枝、荒巻太枝子、鈴木香代、黒田淳二
4　欠席委員　　戸田京子
5　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　伊藤成明(曳馬協働センター)
6　学校　　竹内孝夫（校長)、古橋孝文（教頭)、鈴木正委（ＣＳ担当職員）
　　内堀邦子（CS ディレクター）
7　傍聴者　　なし
8　会議録作成者　内堀邦子（CS ディレクター　）
9　議長選出
　司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ飯尾会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
10 協議事項
　・「学校評価」について
11　会議記録
　司会の古橋教頭から、委員総数７人のうち６人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

○　学校評価について
　最初に、学校評価の実施時期や方法と全国学力学習状況調査について鈴木主幹から、続けて竹内校長から本年度の学校評価の評価項目について説明があり、委員からは以下の発言があった。

・　学習総合評価、学力調査の結果が示されているのを見て、人とのかかわりを大事にしていることが分かった。家庭が安定している。算数、論理的能力、分析力に課題がある。課題に対しての取組について教えて欲しい。（荒巻委員）
・　曳馬小学校が今後一番力を入れたいことが「探求・創造」。５、６年生の学習目標「実社会から課題を見つけ解決のために行動する」に示しているように、自ら考え学ぶ中から学びを広げていく。学んだことを生活に活かし、深く探求していくことを大事に育てる。学習推進は３本の矢「授業改善、生活科・総合的な学習の時間、特別活動（運動会、修学旅行など)」を基点にしている。単なる知識ではなく知識をどのように生活に結び付け、知識を役立てていくかを学び、学力をつけていく。特活も学力として捉えている。常にどのようにしたらよいか思考することにより、論理性や分析力が向上する。全教科そろえて、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度で成績を評価している。テスト結果だけではない。(竹内校長）
・　特別活動の中で、子ども同士の話し合いを通じて協調性や論理性が育まれとても良い。（荒巻委員）
・　これから求められる主体性とは浜松市の方針、国の方針なのか。(黒田委員）

・　国はOECD(国際経済開発機構)の方針に向かっている。浜松市も国の方針に則った基準。浜松の教育という冊子が新しい学習指導要領ができた時、国の方針に準じて示している。各教科はその学習指導要領に則しているが、総合的な学習の時間は基準に則した評価をきちんとする。(竹内校長)
・　評価項目をまとめるのは大変だったと思う。「探究・創造」の５・６年生の目標「生活や社会から自分で課題を見付け、解決に向けて行動することができる」は大人にも必要なこと。このことを学んでいることは素晴らしいことだと思った。(飯尾会長)

その他報告事項等
学校支援活動について、協力依頼の説明があった。
（別紙参照）
司会から、次回会議は、２月７日(金)14:00～15:30に変更し、その際５時間目の「よろこびタイム」の参観を行う旨の報告があった。
９月27日に４年生が「よろこびタイム」の中間発表を行い、委員の参観も可能であるとの連絡があった。